



平成27年3月1日現在

世帯数	939 戸
人口	2,440 人
男	1,224 人
女	1,216 人

任期をふり返り

公民館運営委員長 丸山 幸英

それなりの年齢に到達したこと、順番が回って来た事のみで、第5町会の町内公民館長を拝命し、内田地区全体会議の中でであろう事か、この私が町内公民館長を仰せつかって早2年が経過しました。この間、地区3大行事の運動会は、残念ながら雨天中止となりましたが、盛りだくさんの公民館事業を行う一翼を担えたことに誇りに感じております。皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

役員ということで、立場上各委員として種々会議に出席する機会をいただきました。人権擁護委員会、明るい選挙推進委員会、町内公民館長会理事會、同会報編集委員会等々。力量不足の私には結構なプレッシャーでしたし、経験、実績豊富な論客の集まる中で、肩をすぼめていました。私なりに学ぶことも多く、

貴重な2年間でした。

さて、平成26年度から、市内35地区に「地域づくりセンター」が設置され

1年が経過しました。会議を重ねる中で、未だ模索中の感じがしないではありませんが、あまり肩肘張らずに、内田の状況に合わせた地域づくりを行ってほしいと思います。

弥生三月は別れと出会いの季節。新たな役員のもとで楽しい公民館活動を新年度も行っていきましょう。

◆ ◆ ◆
館報編集委員長 丸山 宇一

公民館報内田版「はちぶせ」の合冊版二冊を改めて見直すところから、二年間の活動がスタートしました。館報「はちぶせ」は、この三月号で三百十七号となりました。積み重ねてきたことの重みを実感しています。

ささやかであっても、内田地区の今の姿を伝え、記録として残していきたいと、九人の編集委員で心を揃えて活動

してきました。
主な内容は、公民館を主とするいろいろな行事、内田地区の各団体の活動、各町会の活動や伝統行事、主だった役員の方の紹介やご挨拶などでした。

一見同じことの繰り返しに思えても、次号の記事の内容を委員会でも検討していると、少しずつ変化していることを感じさせられました。

編集委員が参加・取材できましたが、地区の皆様にお願いで原稿を書いていただくことも多かったです。原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございます。

よくわからないまま二年間が過ぎてしまいました。公民館主事、公民館長のお二人をはじめとする多くの皆様のお陰で責任を果たすことができました。心より感謝申し上げます。

◆ ◆ ◆
図書視聴覚委員長 林 嘉秀

2年前の南花見常会で、次期役員の選出が行われました。ここ数年何もやって無かったので「図書視聴覚委員」(なにをするの?)を受けました。初回の会合で濱公民館

長さんの強い推薦で委員長になってしまいました。行事は、史跡めぐり、視察



◀ サラまつり

▶ 文化祭

▶ 2年連続で中止になった雨天中運動会

▶ 講座で追宿へ

研修、ササラまつりの綿飴係運動会の進行・記録係、文化祭のステージ係などでした。「運動会」は残念ながら2回とも雨で中止となり準備と片付けのみとなりました。

「文化祭」では1年目にステージ係員の不足で大変ご迷惑をおかけし、2年目には多くの方々の協力を頂きました。「図書」という文字が含まれている役なのですが、読書を広める活動がなかなかうまくいきません。近くに寿台図書館もあり、公民館の無料で集めた本の無料貸出など、今後検討する余地があると思います。

役員は大変ですが、綿飴に並ぶ子どもたちの笑顔や、ステージ発表の日常では見られない迫力や拍手を送る皆さんを思い出すと、地域行事の大切さを垣間見た感じがします。

館長さん、主事さん、図書視聴覚委員の皆さん、地区の皆さんのご協力でなんとか務めさせて頂き、ありがとうございます。

最後に、今後高齢化が進む中で、内田地区の皆様方のスポーツに対する意識が高まっていく事を願っております。

ございました。今後とも「図書視聴覚」行事への参加を、よろしくお願い致します。

◆ ◆ ◆
体育委員長 森山 良一

体育委員長に私が決まった時、今後二年間務まるか不安でした。体育委員の皆様や地区の各種団体役員の皆様、公民館長・主事さんの助けをいただいで二年間なんとか、やって来られました。

大きな体育行事はスポーツデー・球技大会・運動会・ユニークスポーツ講習会と四つありますが、その中でも一番のメインイベントであります運動会が、二年連続で雨の為に中止になったことが本心に残りです。前日の準備から始まって当日の片付けまで行っていたいただいた各団体役員の皆様には感謝しております。

最後に、今後高齢化が進む中で、内田地区の皆様方のスポーツに対する意識が高まっていく事を願っております。

人権講座「白磁の人・浅川巧と映画化への歩み」

三月七日、韓国料理店やんちや坊の李春浩さんの講演をお聞きする機会に恵まれました。

私は「白磁の人」の文庫版をしばらく前に読んで、浅川巧の生き方に強く心を打たれましたが、李さんは同じく心を打たれ、この話を様々な困難を乗り越えながら、中心となつて映画化の実現をされました。

浅川巧は、山梨県に生まれ、林業技師として植民地時代の朝鮮に赴任し、山の緑化や朝鮮文化の保護に尽力しました。朝鮮陶磁器の研究にも没頭し、朝鮮と朝鮮人を深く



愛したことから、韓国にある彼のお墓は、現地の人によって今も大切にされているそうです。

講演の中で李さんは在日コリアンとしての半生を語られました。はじめや差別の中を生き抜いてきたということでした。

五十一才の時、「在日のことを正しく伝える」「日韓の友好に汗を流す」ために、ボランティア活動に取り組み始め、その一つの柱が「道々白磁の人」の映画化でした。

様々な困難を乗り越えて、二年前に映画は完成しました。この李さんの行動力とエネルギー、へこたれない強さに、私は心を打たれました。それは差別への憤りと、それと対極にある浅川巧の博愛・異文化を尊重することの大切さを是非伝えたいという李さんの強い思いが底にあるからだと思います。

他国を嫌ったり、ヘイトスピーチが話題になったりする今だからこそ、「白磁の人・浅川巧」の生き方に改めて学びたい思いを強くした講演でした。

五町会 丸山 宇一

人権啓発視察研修

二月二十一日、内田地区人権啓発推進協議会と公民館の共催で、視察研修が行われ、31人の参加がありました。



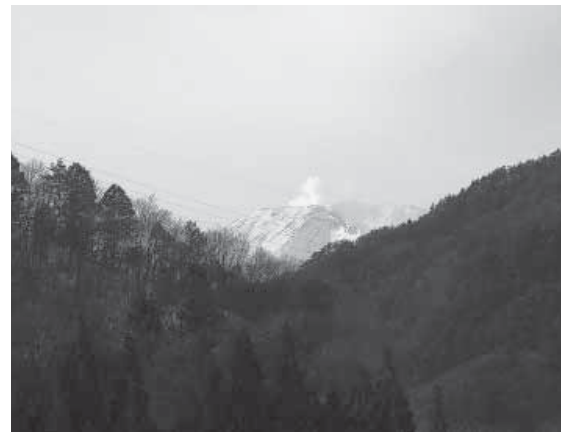
藤村記念館

今回は、部落差別問題を題材とした「破戒」の作者である

島崎藤村に学ぶため、馬籠の藤村記念館を訪ね、現地で「藤村と破戒」について解説していただきました。

「破戒」の主人公 瀬川丑松は、大江磯吉という実在の人物がモデルになっていることや、藤村の直筆原稿が長野市にある北野美術館にあることなど、普段聞く機会のない話もしていただきました。

また、十一月に小諸懐古園を訪れ、そちらでも藤村にふれたこともあり、より身近に藤村を感じられたように思います。



まだ噴煙の上がる御嶽山

昨年、御嶽山噴火や南木曾町土石流災害など、大規模災害が続いた木曾の復興を願い、木曾路を使って被災地の近くを通り、復興支援の買い物などをしながら帰路につきました。

つれづれ編集記

館報編集委員会を町会から任されて二年が経ち、編集作業もいよいよ最後を迎えました。

編集作業は初めての方が多かったこともあり、館長さんや主事さんにリードしていただきながら毎回なんとか編集してきたように思います。ただ、作業を重ねるうちに内田の行事や各町会の出来事などを知り、内田地区を改めて見

直す機会になったのではないかと感じております。

公民館長さん、主事さん、温かく編集作業を見守っていただきありがとうございます。編集委員の皆さまも二年間たいへんお疲れさまでした。

公民館報がこれからもたくさんさんの情報を地区に伝える機能として発展することを期待しております。二年間ありがとうございました。

七町会 前澤 弘一

- 一町会 池田 光代
- 二町会 中島多美子
- 三町会 福島 栄三
- 四町会 百瀬里恵子
- 五町会 丸山 宇一
- 六町会 中村知枝美
- 七町会 前澤 弘一
- 八町会 小林 政美
- 九町会 高山 梢